



Earth Negotiations Bulletin
The International Institute for
Sustainable Development
<http://www.iisd.ca/>



Vol.12 No.645

2015年10月13日(火)

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第42回総会サマリー(要約版)

2015年10月5日-10月8日

気候変動に関する政府間パネルの第42回会合(IPCC-42)は、2015年10月5日から8日、クロアチアのDubrovnik(ドゥブロヴニク)で開催され、136か国から424名の代表が集合した。この会合の大きな焦点は、IPCC議長団及びタスクフォース議長団(TFB)の選挙であり、この中にはIPCC議長、IPCC副議長、作業部会(WGs)及びTFBの共同議長、WG副議長、及びTFBのメンバーが含まれた。クロアチア政府主催の非公式会合では、IPCC議長候補者が紹介され、それぞれが自己紹介をするフォーラムもともに開催された。パネルは、Hoesung Lee(韓国)を第6次評価サイクルのIPCC議長に選出した。

同じくIPCC-42の議題となったのは次のとおり: IPCC-41報告書草案の承認; IPCCプログラム及び予算; IPCCの活動及び会合期間外会議に関する報告書; ワークショップ及びクリニック; 選挙関連の手続き問題; IPCC誤謬プロトコル(IPCC Error Protocol)の実施; 国連気候変動枠組条約(UNFCCC)の関連事項; 特別報告書(SRs)。

本会合の議長は、2月のIPCC-41会合直前のIPCC議長Pachauriの辞任を受け、IPCC-42での新議長選出までの条件でIPCC議長代行に就任したIsmail El Gizouliが務めた。



Earth Negotiations Bulletin
The International Institute for
Sustainable Development
<http://www.iisd.ca/>



公益財団法人
地球環境戦略研究機関
Institute for Global
Environmental Strategies
<http://www.iges.or.jp>



(一財)地球産業文化研究所
Global Industrial and Social
Progress Research Institute
<http://www.gispri.or.jp>

IPCC-42の簡易分析

第5次評価報告書 (AR5) の完成、及び第6次評価報告書における作業継続という IPCC-41 の決定を受け、気候変動に関する政府間パネルの第42回会合は、有能な IPCC 議長代行の Ismail El Gizouli の下で開会した。本会合では、次期評価サイクル期間を通してパネルの作業遂行を担う議長団の選出が大半を占めた。この分析では、選挙プロセス及び今後の IPCC の課題の一部を簡単に紹介する。

IPCC には多数の特異点があるが、各評価サイクルにおける議長団の全員交代という特異点もある。新しい IPCC 議長、作業部会 (WGs) 議長及び副議長、タスクフォース議長団 (TFB) が選出され、各総合評価報告書及びこれに伴う文書の作業を担当することになる。今回の場合、議長団の交代と時を同じくして、IPCC 事務局長の Renate Christ も 2015 年 7 月に引退した。このため第6次評価サイクルでは、IPCC 事務局長も新任となった。

この選挙を極めて複雑なものにしているのは、議長団の地位を先進国及び途上国でバランスさせなければならないこと、WMO の地域グループ間においても、合意された割当システムに則り配分する必要があるという事実である。異なる地位の選挙が進むにつれ、たとえ出身国政府の指名を受けた候補者も、一部のものは被選挙権を失う可能性がある、例えば、出身地域に割り当てられた分が既に満たされている場合などである。地域に割り当てられた数に達していない場合、当該地域は、その場で、即座に、適正な資格があり該当する特定の地位に関連する専門知識を持つ候補者を見出す必要がある。各候補者は、メンバー1名につき1票の秘密投票で行われる有効投票数の単純過半数で選ばれる。第1回の投票で過半数に達しなかった場合、上位2名の候補者による決選投票が行われる。

パネルが従うことになる (議長の) 影響力を暗示してか、IPCC 議長の席は熱のこもった選挙戦となった。非常に遅く候補指名が発表された Ogunlade Davidson を除き、IPCC で最高位の資格を有し、経験を有する6名の候補者が指名され、全ての候補者が集中キャンペーンを行った。秘密投票であること、優れた候補者が多数いたことから、勝利の可能性を予測するのは容易ではなく、さらに欧州の候補者が3名、米国の候補者が1名であった事実から、先進国間で票が割れる可能性も伝えられていた。韓国の Hoesung Lee の当選は、多くのものにとり驚きと受け止められた。Lee 氏は母国から膨大な支援支持を受けており、これは気候変動分野での一部のアジア諸国の力の高まり、リーダーシップをとりたいとの希望の高まりの証拠を示すものである。それほど明確でないのは、途上国が票の大多数を占めるこの選挙で同氏が勝利した最大の要因は何かということである。



Earth Negotiations Bulletin
The International Institute for
Sustainable Development
<http://www.iisd.ca/>



公益財団法人
地球環境戦略研究機関
Institute for Global
Environmental Strategies
<http://www.iges.or.jp>



(一財)地球産業文化研究所
Global Industrial and Social
Progress Research Institute
<http://www.gispri.or.jp>

事実、新しい議長が対応すべき重要問題の一つは、途上国出身科学者の広範かつ意味のある参加から、評価報告書の情報対象範囲を途上国世界、特に一部のアフリカ地域に拡大することまで、IPCCの作業における途上国の更なる参画を求める持続的な要請に対応することである。評価報告書の分量が多くなり、その範囲が拡大するにつれ、このような要請の声は大きくなり、今国会までの、及び今国会中に配布されたキャンペーン資料、さらには火曜日午前中、IPCC-42の傍らで行われた候補者フォーラムの両方においても、繰り返し述べられた。しかしこのためには、IPCCの有意義なリーダーシップが求められているだけでなく、途上国出身の科学者をこのプロセスに誘導するため、途上国政府の更なる参画が求められる。

パネル及びその議長は、コミュニケーション及びアウトリーチ活動改善という別な要請にも留意する必要がある。IPCCの異常なまでの複雑さは、世界の大半のものにとり理解しがたいものだが、パネル内部の作業も、多くのものにとり謎のままである。例えば、選挙は閉ざされた扉の向こうで行われ、ソーシャルメディアも通常のメディアも報道管制を受けることから、煙突から白煙が立ち上るのを待つバチカンの法王の選挙と一部似通い、中で何が行われているか知るよしもない。それでも選挙が最高の透明性を持ち、だれもが参加できるという開放性を持って行われているのは事実である。パネルの特異な構造及び手続きに対する一般の理解を進めるなら、その信頼性を高めることが可能である。

参画性及び開放性は、新しい議長団が対応していかなければならない課題である。気候変動の科学において、新しい議長団に問われる重要な質問は何かというと、AR5で課されたものと異なってくるのかであり、例えば「既知の未知」（我々は知識がないが、おそらく恐れる必要があると判明している事柄）の明確化、及び効果のフィードバックの可能性など、起因するものが何かという質問を超えたところに踏み込む必要があるかどうかである。加えて、パネルは、そのマנדート的一端として政策関連性が求められており、AR5の指摘するとおり、近未来に脱炭素化を行わなければならないが、そのような転換を確保するに足るだけの被験技術が不足している世界で、どのような解決策が可能かを議論する必要がある。

このような作業は全て、これまで以上の学際性のある手法を必要としており、さらに協力して作業でき、各人が最も熟知する専門分野及びネットワークを超越する指導力を必要としている。新しい議長団、WGs及びその技術サポートユニットは、このような事柄に欲して欲しいと多くのものが希望した。一部のものが言う通り、参画性の高まり、特に質問事項の枠づけに広範な手法を含めることは、一方ではサイクルの終わりの政策立案者向けサマリーの承認プロセスを困難なものにする可能性があるが、報告書を、広範な聴衆や政策決定者に関連性のあるものにするのが可能となる。さらにパネルは、男女比のバランスでも努力する必要がある。新しいIPCC議長団のメンバーに選ばれた34名のうち女性は8名いたが、31名のメンバーを選出した前回の議長団では5名であった。TFBでは、前回、女性4名であったのに対し、今回は6名の女性を選出され、組



Earth Negotiations Bulletin
The International Institute for
Sustainable Development
<http://www.iisd.ca/>



公益財団法人
地球環境戦略研究機関
Institute for Global
Environmental Strategies
<http://www.iges.or.jp>



(一財)地球産業文化研究所
Global Industrial and Social
Progress Research Institute
<http://www.gispri.or.jp>

織内の男女比は50%となった。今回の会合で選出された議長団は、この点で前回より改善されたことになるが、科学者の世界全般と同様、パネルにはまだ長い道のりが残されている。

最も重要なことは、議長団、特にIPCC議長は、気候変動の最も権威ある情報源として期待されるこの組織を指導していく上で、確実な科学理解力があることを実証しなければならないことである。新しい議長は、全ての地域から選ばれた34名の議長団の一部である副議長及びWG共同議長の強力なチームに頼ることができる。

2か月足らずのうちに、パリで、国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) の第21回締約国会議 (COP 21) が開催され、必要な努力からすると不適切とみられているとはいえ、全ての国が目標を持つ新しい気候変動の合意が出てくると予想される中、IPCCの課題は見つけるのには事欠かない。海洋、砂漠化、適応と緩和のリンクなど、多様な専門的特別報告書の提案が既に机上に上がっており、今回の会合で議論する時間はなかったが、次回会合など可能な限り早期に迅速な決定を行う必要があるものも含まれる。どれも、UNFCCCプロセスに有用なインプットを提供するほか、実地の意味のある行動を生むことが望まれる。

どれも簡単な作業ではない。必要とされるのは、会合中に想起された初代IPCC議長のBert Bolinの言葉を借りると：「国際科学者社会が信頼できるものとして受け入れ」、「世界では公平性及び社会正義の欠如が蔓延しているとの観点から見た」、「事実に対する洞察力のある検証」である。

(IGES—GISPRI仮訳)

This issue of the *Earth Negotiations Bulletin* © <enb@iisd.org> is written and edited by Deborah Davenport, Ph.D., Maria Gutierrez, Ph.D., and Anna Schulz. Japanese translation by GISPRI. The Digital Editor is Kiara Worth. The Editors are Leila Mead and Pamela Chasek, Ph.D. <pam@iisd.org>. The Director of IISD Reporting Services is Langston James "Kimo" Goree VI <kimo@iisd.org>. The Sustaining Donors of the *Bulletin* are the European Union, the Government of Switzerland (the Swiss Federal Office for the Environment (FOEN), the Swiss Agency for Development Cooperation (SDC)), and the Kingdom of Saudi Arabia. General Support for the *Bulletin* during 2015 is provided by the German Federal Ministry for the Environment, Nature Conservation, Building and Nuclear Safety (BMUB), the New Zealand Ministry of Foreign Affairs and Trade, SWAN International, the Finnish Ministry for Foreign Affairs, the Japanese Ministry of Environment (through the Institute for Global Environmental Strategies - IGES), the United Nations Environment Programme (UNEP), and the International Development Research Centre (IDRC). The opinions expressed in the *Bulletin* are those of the authors and do not necessarily reflect the views of IISD or other donors. Excerpts from the *Bulletin* may be used in non-commercial publications with appropriate academic citation. For information on the *Bulletin*, including requests to provide reporting services, contact the Director of IISD Reporting Services at <kimo@iisd.org>, +1-646-536-7556 or 300 East 56th St., 11D, New York, NY 10022 USA.